

【資料1】

平成23年度 唐津市立相知小学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b> 心身ともに健やかで個性豊かな意欲あふれる児童の育成 ー やればできる 今日も来てよかった相知小学校 ー	
<b>2 学校経営ビジョン</b> (1)「やればできる」という気持ちを育む ・成功体験を積み重ねさせ、自信を持たせる。 ・温かい人間関係の中で、自尊心を高めさせる。 (2)「今日も来てよかった」と実感させる ・児童に、学校生活のあらゆる場面で「頑張りを認め、褒め、励ます」ことで、充実感を味わわせる。 ・わかる授業を実践し、児童に「わかった」「できた」という実感をもたせる。	
<b>3 本年度の重点目標</b> ①小中連携の推進(学力向上をめざして) ②「ニコ・キビ・ハキ・ドン」の実践 ③計画－実行－反省を基盤とした学校改善 ④保護者、地域住民との連携と、信頼される学校づくり ⑤教職員こそ最大の教育環境(モデル)であるという自覚を持ち、研究と修養に努める。	<b>4 前年度の成果と課題</b> ◇中学校と連携を図りながら学力向上を目指した結果、目標標準学力調査(GRT)では、国語・算数について、全ての学年で期待正答率を上回ることができ、多くの児童に基礎基本が定着してきていることがわかる。しかし、活用が必要な問題については、正答率が低い面があり、活用力を培う学習に取り組む必要がある。また、小中学校の連携については、意識調査において児童・保護者・地域ともに、連携への意識が低く、連携の効果が実感されていない面がある。そこで、小中連携での学習や活動などを進める中で、児童に連携の効果を実感させると共に、保護者や地域への連携の効果について知らせていく必要がある。 ◇「ニコ・キビ・ハキ・ドン」の合言葉のもとに、あいさつと掃除を中心に、率先垂範の意識で、職員が一丸となり指導を行った。掃除については、真面目に最後まで取り組む児童が増えた。あいさつについても、意識は高まってはいるが、個人差が大きく、更なる指導が必要である。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
<b>①小中連携の推進(学力向上をめざして)</b>				
学校運営	○小中連携	・小中連携の推進	・アンケート調査において、「小学校と中学校が連携して、学習や生活の指導に取り組んでいる」と答える保護者を80%以上、「中学生や中学校の先生と一緒に勉強や活動することが楽しい」と答える児童(高学年対象)を80%以上にする。 ・小学校及び中学校で、授業公開日を設定し交流する。	・小学校と中学校で連携して、合同での「あいさつ運動」「ボランティア活動」や職場体験実習、体験入学などを行う。 ・小学校と中学校で、授業公開日を設定し、互いの授業の様子を参観する。また、中学校の教職員が小学校で授業するなど、教職員の交流も行う。
教育活動	●学力向上	・指導方法の改善 ・家庭学習の習慣化	・目標標準学力調査(GRT)において、全学級が唐津市の正答率を上回るようにする。 ・アンケート調査において、「家庭学習は、学習のめやすで示された時間程度している」と答える保護者が80%以上にする。	・全職員での授業研究を通して、基礎基本の習得及び活用力を育成する授業づくりを行う。 ・スピーチタイム、スキルタイムなどの時間を活用し、基礎的な学力の育成を図る。 ・「相知子家庭学習のすすめ」を配布し、家庭との連携を図る。 ・家庭学習の実態を調査し、時間や内容について指導を行う。
<b>②「ニコ・キビ・ハキ・ドン」の実践</b>				
教育活動	●心の教育	・元気なあいさつ(ニコ) ・無言掃除(キビ) ・支持的風土づくり(ハキ) ・多読の推進(ドン)	・アンケート調査において、「元気にあいさつしている」「無言で掃除をしている」「友だちにやさしい言葉で話している」「本を100冊以上読んだ」の4つの項目ができた」と答える児童を80%以上にする。	・「ニコニコ笑顔で元気なあいさつ、キビキビ動いて無言で掃除、ハキハキ返事とやさしい言葉、ドン読書で100冊めざそう」の合言葉を児童に周知する。 ・年間を通して、あいさつ運動を実施する。 ・掃除指導では、教職員も一緒に行いながら、手順や方法を指導する。 ・各学級で、道徳や仲間づくりの授業を行い、支持的風土を醸成する。 ・なかよしタイム(人権集会)で、言葉についての感性を高める。 ・読書カードの活用や図書館に児童が興味を持つコーナーを設置する、図書館だよりでの図書紹介など、児童の読書への意欲を喚起する。
<b>③計画－実行－反省を基盤として学校改善</b>				
学校運営	○学校改善	・各取組の反省の活用	・取組・行事について計画するときには、昨年度の反省を活用する。 ・取組・行事については、反省を行い、成果と課題について記録する。	・平成22年度の取組・行事等の反省を活かして、各専門部等で検討し、平成23年度の取組・行事等を実施していく。その際、「やればできる」「今日も来てよかった」の視点で各行事を見直す。 ・各取組・行事については、実施後に反省を行い、成果と課題を確認し、その結果を受けて次年度の計画ができるように記録しておく。
<b>④保護者、地域住民との連携と、信頼される学校づくり</b>				
学校運営	○保護者、地域との連携	・学校行事への保護者・地域住民の参加 ・地域行事、育友会活動への協力	・公開授業及び授業参観における保護者の出席率を60%以上にする。 ・育友会主催の教育講演会への全職員の参加及び80名以上の保護者の参加をめざす。 ・アザメの会の活動、町民運動会、相知くんち等の地域行事に、児童及び教職員が参画する。	・公開授業及び授業参観については、開催期日を年度当初に育友会総会の資料に記載し、全保護者に周知する。また、実施1ヶ月前に文書の配布、メール配信、ホームページ掲載等を行う。 ・教育講演会については、全教職員が参加できる体制を整える。また育友会と協力して、保護者の参加を呼びかけていく。 ・アザメの会の活動、町民運動会、相知くんち等の地域行事への児童の参加を呼びかける。また教職員も、企画や行事に参加していく。
<b>⑤教職員こそ最大の教育環境(モデル)であるという自覚を持ち、研究と修養に努める。</b>				
教育活動	○教職員の資質向上	・授業研究の推進	・全教職員が、年間1回以上研究授業を実施する。	・全体及びグループでの研究授業を、一学期中に全職員が実施できるように計画する。 ・研究発表会(11月15日)において授業公開を行う。 ・教育環境としての教職員の役割を自覚し、日常の言動等に留意するように、会議等で指導していく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・運動習慣の改善や定着化	・アンケート調査を実施し、「体を動かすことが好き」と答える児童を85%以上にする。	・月曜日の朝の時間を活用し、「たてわり遊び」「なわとび」「持久走」に取り組ませる。 ・体育委員会の児童を通して、昼休みなどに「外遊び奨励」の放送を行う。 ・児童が、楽しんで運動できる体育の授業を工夫する。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の充実	・基本的な生活習慣及び学習習慣の育成	・基本的な生活習慣及び学習習慣について指導項目を設定し、達成率85%以上にする。	・整理整頓、忘れ物、提出物について、チェック指導する。 ・連絡帳、通信等を活用して、連絡を密に行い、家庭と連携した指導をする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目